

秋田大学 正 員 清水浩志郎

秋田大学 学生員 林 達夫

秋田大学○学生員 小川 悟

1. はじめに

国鉄秋田駅前は、昭和49年秋田駅前地区再開発基本計画による駅前再開発事業により、今日では駅前商業地が非常に活性化をみせており、再開発の一応の成果がうかがわれる。しかし一方では、駅前商店街への自動車利用客の急増により交通渋滞が増加しており、とりわけ土・日曜日の駐車待ちの車による混雑は深刻化している。こうした現象は、地方都市においても自動車保有者が増加したことに共に、周辺市町村からのマイカー利用者が地方中核都市の商店街、例えば駅前を一種の「レジャー施設」と考え利用しているとも推察されることから、駅前商業地の自動車での利用実態、特性を把握することが今後の都市再開発計画に重要と思われる。

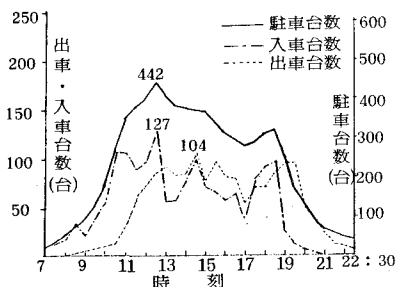
本報告では、上述の認識に基づき、駅前再開発事業の一環として建設された秋田市公営駐車場において、昭和59年10月26日（金）、10月28日（日）に入車出車台数、駐車台数調査及びアンケート調査（有効サンプル数、平日200票、休日259票）を実施し、その結果に基づき、駐車場利用者の利用特性の把握を試みた。以下、その分析結果について述べる。

2. 国鉄駅前駐車場の利用特性

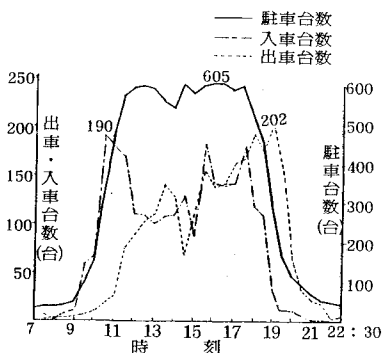
平・休日の時間帯別駐車状況を図一/、2に示した。観測時間は、駐車場の営業時間である午前7時から午後10時30分までの15時間30分とし、30分毎に観測した。図一/の平日では、入車は出車との時間のずれで4回のピークが生じている。つまり、各時間帯の利用者は、2時間から2時間30分の駐車時間で利用していると考えられる。最大駐車台数は、平日442台であるが、休日（図一2）では午前中の駐車台数は572台であり、駐車容量が576台であることからほぼ満車状態となり、この状態は午後7時頃まで続く。平・休日を比較すると、駐車台数は休日は平日を上回っており、駐車の数台数は平日の1.57倍にあたる。また平・休日とも、午前10時～10時30分に入車のピーク、午後6時30分～7時に出車のピークが生じており、このことは駅前商店街の大部分が、午前10時開店、午後7時閉店であることが要因になっていると考えられる。

駐車場の利用目的を図一3に示した。平日では、「買物（ウィンドショッピングを含む）」が73.5%、「業務・商用・通勤など」が22%、「飲食・レジャー」4.5%の順であり、休日では、「買物」88.4%、「業務・商用・通勤など」8.5%、「飲食・レジャー」8%となっており、平・休日とも買物による利用が多い。このことから、典型的な商業立地型駐車場といえる。

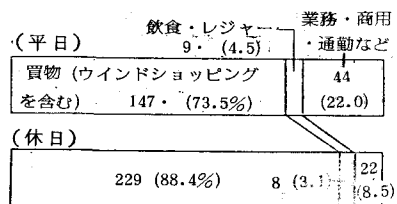
次に同伴者の有無を表一/に示した。平日では、「いない」46%、「1～3人」51%、「4人以上」3%であるが、休日では「1～3人」79.5%に増加し、同伴者のいる利用者が86%を占めている。このことより、平日では1人での買物が比較的多く、これに対し休日では、家族または友人との利用率が高いことから、レジャーの意味合いを含んだ「買物」が多いと考えられる。



図一/ 時間帯別駐車状況（平日）



図一2 時間帯別駐車状況（休日）



図一3 利用目的

表一-2に示したのが、駐車場までの所要時間である。平日では「11～20分」が39.5％と最も多く、次に「0～10分」が18％と続いており、60分以内で全体の88％を占める。一方休日においても、「11～20分」が31％と高く、「0～10分」が20％で全体の83％が所要時間60分以内である。しかし、61分以上の所要時間をみると、平日7.5％、休日17％と休日と比較的遠距離からの利用者が多い。

図一-4には、駐車場利用者の住所区域を示した。平日では「秋田市内」75％、「秋田市外」25％であるが、休日では「秋田市外」が33％に増加しており、この結果からも休日は平日より遠距離からの利用者が多いことがわかる。これらのおよそ半数の人が、駅前の商店街を利用した理由として「商店の種類と商品が豊富だから」をあげている。

ここで、市内市外別の休日における自動車利用理由を表一-3に示す。秋田市内では「車がある・便利・荷物があるなど」が34％であるが、秋田市外では「バス・汽車などではダイヤに制約されるから」31％、「バス・汽車などでは時間がかかるから」13％と両者を合わせると40％を越え、公共交通機関の不便さを理由にあげている。つまり、このことは、秋田市以外の居住者が秋田駅前へのアクセス交通が不備であることを最大の理由として、自動車を利用しているものといえる。

現在秋田駅前地区の一部の商店では、その商店の負担で一定金額以上の買物をする無料駐車回数券を配布するサービスが行われている。そこで「もしこの無料制度が廃止されてもここまで自動車を利用するか」との問いに対しては図一-5に示す。これによると「利用する」と回答した人は、秋田市内84％、秋田市外95％となっている。これは、代替交通手段が豊富でトリップ長も短い「市内」とそれに対する「市外」の特徴がわずかながらも現れているといえる。

以上、秋田駅前公営駐車場の利用実態からその特性のいくつかを明確にすることができ、地方都市の駅前地区計画に際し、示唆される点を得た。今後、自転車交通をも含み計画策定を行いたいと考えている。なおこの調査に当り、秋田駅前再開発事務所、秋田市駐車場公社のご協力をいただいた。とくに秋田市駐車場公社では、時間帯別利用状況の観測の全面的な実施をお願いした。深く感謝する次第である。

(参考文献)

「秋田駅前市街地再開発事業概要」

秋田市都市開発部・秋田駅前再開発事務所

表一 / 同伴者は何人いるか

	いない	1～3人	4人以上	計
平日	46.0%	51.0%	3.0%	100.0%
休日	13.9%	79.5%	6.6%	100.0%

表一-2 駐車場までの所要時間

	0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～120分	121分以上	計
平日	18.0%	39.5	15.0	15.0	3.5	4.5	100.0
休日	20.1%	30.9	13.5	18.5	13.9	3.1	100.0

(平日)

秋田市内 150 (75.0%)	秋田市外 50 (25.0)
---------------------	-------------------

(休日)

173 (66.8)	86 (33.2)
------------	-----------

図一-4 駐車場利用者の住所区域

表一-3 自動車利用理由 (休日)

	秋田市内	秋田市外
バス・汽車などでは時間がかかるから	11.0%	12.8%
バス・汽車などではダイヤに制約されるから	11.0	31.4
商店街まで遠いから	5.8	5.8
同伴者がいるから	19.7	11.6
駐車場の設備がよいから	5.8	3.5
一定金額以上の買物をする無料駐車料金が無料になるから	2.9	2.3
天気が悪いから	6.9	1.2
車がある・便利・荷物があるなど	33.5	17.4
不明	3.4	14.0
計	100.0	100.0

(秋田市内)

利用する 146 (84.4%)	利用しない 27 (15.6)
---------------------	--------------------

(秋田市外)

利用する 82 (95.3)	利用しない 4 (4.7)
-------------------	------------------

図一-5 無料制度が廃止されたとしてもここまで自動車を利用するか (休日)